

臺灣ニ於ケル日本紙原料試驗成績

技 手 矢 次 萬 六

臺灣ニ於ケル製紙業ハ從來竹ヲ原料トスル粗唐紙ノ製造ノミナリシモ近來反古紙ヲ原料トシ之ニ本島產カチノ其ノ他ノ纖維ヲ加ヘテ和紙ノ製造ヲ試ムルモノアルニ至レリ仍テ本島ニ於ケル日本紙原料數種ニ就キテ爲セル試驗成績ヲ愛ニ報告セントス。

供試品名 一、カチノキ 二、桑 三、おほはまぼう及むくげ 四、うらじろえのき 五、ビキはずゝき 六、芎蕉及山芎蕉 七、鳳梨

一、カチノキ

カチノキハ苧麻科ニ屬シ學名 *Broussonetia Papyrifera*, Vahl. ニシテ土名ヲ鹿仔樹漢名ヲ楮又ハ楮ト云フ野生セルモノヲ採集シテ紙料原料トナス供試品ハ臺中州產ニシテ樹齡不明ナリ外皮ハ褐色ヲ帶ビ長サ約四—五尺ニ至ル風乾物中ノ水分一六五三% 灰分六一三% ナリ。

蒸煮試驗 イ、苛性曹達蒸煮試驗本皮ヲ一夜間水ニ浸漬シテ柔軟トナセルモノヲ平釜ニ容レ原料ノ約一五倍量ノ水ニ苛性曹達純度九五% 五% ヲ溶解セル液ヲ加ヘ約二時間煮沸セシニ煮熟ノ程度良好ニシテ纖維ハ叩解ニ依リテ分離スルニ至ルヲ以テ水洗シテ黒皮ヲ剝除シ叩解後尙ホ水洗シ日乾ス其未晒紙料ノ歩留ハ原料ニ對シ約四割ニ相當ス。

ロ、石灰蒸煮試驗前同様水ニ依リ柔軟トナシタル後苛性石灰ヲ原料ニ對シ二割水約一五倍量ヲ加ヘ三時間煮沸セシニ黒皮ハ割竹又ハ鈍刀ニ依リテ削リ割グロトヲ得ルニ至リシヲ以テ黒皮ヲ去リ水洗後叩解作業ヲ行ヒ再ビ水洗日乾ス未晒紙料ノ歩留ハ原料ニ對シ四割二分ナリ。

一、鹿仔樹漢名ヲ構又ハ楮ト云
 二、近來反古紙ヲ原料トシ之
 三、至レリ仍テ本島ニ於ケル日
 四、ろえのき 五、どきはすゝき
 六、矢次萬六
 七、モ近來反古紙ヲ原料トシ之
 八、至レリ仍テ本島ニ於ケル日
 九、ろえのき 五、どきはすゝき
 十、矢次萬六

本紙
 六芎

臺灣ニ於ケル日本紙原料試驗成績報告(正誤表)	
頁數	行數
二	四
三	五
三	二
七	一
七	七
七	八

鹿仔樹漢名ヲ構又ハ楮ト云
 近來反古紙ヲ原料トシ之
 至レリ仍テ本島ニ於ケル日
 ろえのき 五、どきはすゝき

フ野生セルモノヲ採集シテ紙料原料トナス供試品ハ臺中州產ニシテ樹齡不明ナリ外皮ハ褐色ヲ帶
 ビ長サ約四—五尺ニ至ル風乾物中ノ水分一六五三%灰分六一三%ナリ
 蒸煮試驗 苛性曹達蒸煮試驗本皮ヲ一夜間水ニ浸漬シテ柔軟トナセルモノヲ平釜ニ容レ原料
 ノ約一五倍量ノ水ニ苛性曹達純度九五八%五%ヲ溶解セル液ヲ加ヘ約二時間煮沸セシニ煮熟ノ程
 度良好ニシテ纖維ハ叩解ニ依リテ分離スルニ至ルヲ以テ水洗シテ黒皮ヲ剝除シ叩解後尙ホ水洗シ
 日乾ス其未晒紙料ノ歩留ハ原料ニ對シ約四割ニ相當ス
 石灰蒸煮試驗前同様水ニ依リ柔軟トナシタル後苛性石灰ヲ原料ニ對シ二割水約一五倍量ヲ
 加ヘ三時間煮沸セシニ黒皮ハ割竹又ハ鈍刀ニ依リテ削リ割グトヲ得ルニ至リシヲ以テ黒皮ヲ去
 リ水洗後叩解作業ヲ行ヒ再ビ水洗日乾ス未晒紙料ノ歩留ハ原料ニ對シ四割二分ナリ

臺灣ニ於ケル日本紙原料試驗成績報告

漂白試驗 日乾未晒紙料ヲ數時間水浸シ叩解シテ纖維ヲ分離シ之ニ市販ノ漂白粉有効クロール約三〇〇%ヲ原料ニ對シ七%作用セシメタルニ約三時間ニテ白色ヲ呈セリ其歩留ハ風乾紙料トシテ原料ニ對シ約三割ナリ故ニ漂白作業ニ依リ約一割ヲ損失ス。

本皮中單纖維ノ側定セルモノハ長サ一五乃至一五耗幅〇〇〇八乃至〇〇三七耗ナリ。

II. 桑

桑ハかぢのきト同科ニ屬シ學名 *Morus alba*, L. 土名ヲ娘仔樹ト云フ本島ニ於テハ養蠶時ニ樹ノ基部ヨリ刈取り葉ヲ採取シタル殘樹ハ燃料トナスノミニテ未ダ製紙原料トシテ利用セラレズ供試品ハ殖産局附屬養蠶所ヨリ分與セラレタル臺北産ニシテ樹丈四一五尺ノ一年生ナリ而シテ刈取時ニ於ケル皮部ノ歩留ハ桑樹ニ對シ二割五分ニシテ其生剝皮ノ水分ハ五四四一% 灰分ハ風乾物水分一五〇%ニ對シ六五二%ナリ。

剝皮試驗 桑樹ノ剝皮ハ若キ部ハ容易ナルモ老ヒタル部ハ短ク切斷サレ易クシテ連結セル剝皮ヲ得ルコト困難ナリ仍テ生剝皮ニ對シ一割ノ石灰ヲ加ヘ適量ノ水ト共ニ其儘桑樹ヲ煮沸スルコト約二時間ニ及ブニ黒皮ハ割竹又ハ小刀ニテ削リ去ルコトヲ得ルニ至ル之ノ操作ハ剝皮セルモノヲ煮沸シテ黒皮ヲ除去スルニ比スレバ却ツテ容易ニ其目的ヲ達ス可シ。

蒸煮試驗 イ剝皮試驗ニ依リテ得タル白皮ヲ生剝皮ニ對シテ石灰五分ノ割合ニテ混和セル液約一〇倍量ヲ加ヘ一時間煮沸セシニ容易ニ纖維ハ叩解分離スルコトヲ得タリ之レヲ水洗シ日乾後其未晒紙料歩留ヲ檢スルニ生剝皮ニ對シ八五三%ニシテ風乾剝皮(水分一五〇%)ニ對シ一五八七%ナリ。

ロ又刈取時ノ桑樹ヨリ直ニ剝皮シ之レニ對シ一割ノ石灰ヲ加ヘ一時間半所理セシニ蒸熟良好ナ

リ即チ黒皮ヲ取り去リ叩解水洗シテ未晒紙料ノ歩留ヲ檢スルニ生剝皮ニ對シ八二一%ニシテ前成績ト殆ンド同一ナリ。

漂白試驗 未晒紙料ヲ水浸シテ纖維ヲ叩解分離セシメ之レニ原料風乾剝皮ニ對シ市販漂白粉五分ヲ作用セシムルニ約一時間半ニテ純白トナレリ其風乾漂白紙料ノ歩留ハ生剝皮ニ對シ四九一%ニシテ風乾剝皮ニ對シ九一二%ナリ桑皮ノ單纖維ハ長サ及幅共ニ殆ンドかぢのきト等シ。

III. おほはまぼう(やまあさ)及びくげ。

おほはまぼうハ錦葵科ニ屬シ學名 *Hibiscus thibensis*, 土名ヲ菓葉又タ鹽水面頭果ト云ヒ漢名ヲ黃楸ト稱ス本島各地ニ野生ス殊ニ海濱ニ繁殖スルヲ以テ小笠原島ニテハかいがんいちびトモ云フ心臟形ノ葉ヲ有シ多クノ枝ヲ分岐シ直幹ヲナスコト少ナシ靱皮部ハ厚クシテ纖維質ニ富ム是レヲ剝皮スルニ老ヒタル部ニ至ルニ從ヒ連續セル剝皮ヲ得ルコト困難ナルモ蒸煮スル時ハ作業ヲ容易ナラシム刈取時ニ於テ技部ヨリ得タル皮部ノ歩留ハ約五割五分ニシテ其水分七一七二%ナリ淡水地方ニテ黒皮ヲ除去シテ細索用ヲ爲ス土名朴仔皮ハ即チ是ナリ。

蒸煮試驗 イ風乾剝皮ニ對シ約二割ノ石灰ヲ加ヘ二時間煮沸スルニ鈍刀ヲ以テ黒皮ヲ削除シ得ルニ至ルモ靱皮部ハ叩解ニ依リテ紙料状態トナスコトヲ得ズ。

ロ風乾剝皮ニ對シ苛性曹達一五%ヲ加ヘ適量ノ水ト共ニ三時間所理スルニ蒸熟十分ナラザルガ爲メ之レヲ高壓釜ニ取り攝氏一四〇度ニテ五時間所理スルニ叩解ニ依リテ紙料状態トナスコトヲ得。

漂白試驗 右紙料状態トナリタルモノヲ風乾剝皮ニ對シ市販漂白粉七%ヲ用ヒテ所理スルニ約二時間ニシテ白色トナル而シテ漂白紙料ノ歩留ハ風乾剝皮ニ對シ一八二%ニ相當ス。

靱皮ノ單纖維ヲ測ルニ長サ四乃至二七耗幅〇〇〇五乃至〇〇二四耗ナリかちのきニ比スレバ細ク且ツ長シ。

おほはまぼうト同科ノ植物むくげ學名 *L. Hibernicum* Synonym *L. 漢名木槿*ニ就キ前記ト同様ノ試験ヲ行フニ蒸煮及漂白試験共ニ殆ンド相似タル成績ヲ得タリ即チ漂白紙料ノ歩留ハ風乾剝皮ニ對シ一三三三%ナリ。

靱皮ノ單纖維ハ長サ〇四乃至二〇耗幅〇〇〇三乃至〇〇一六耗ナリ斯クノ如ク纖維短キヲ以テ他ノ長纖維紙料ヲ混用スルニ非ズンバ日本紙ヲ漉紙スルコト困難ナリト認ム。

四、うらじろえのき

うらじろえのきハ藤麻科ニ屬シ學名 *Terna orientalis* Bl. ナリ土名山黃麻ト稱ス沖繩地方ニテハムクギト云フ樹皮ハ平滑灰褐色ヲ呈シ黒皮ト白皮トハ殆ンド相半ス而シテ樹皮ノ得量ハ直徑二寸五分内外ノ枝部ニテ約二割八分其水分六四五二%ナリ。

剝皮試験 供試品ハ枝部ニシテ長サ一尺内外ニ切りタルモノヲ用ヒタリ本植物ハ非常ニ液分ヲ含有シ生木ヲ切斷スル時ハ断面ヨリ滴下スルノ程度ナレバ樹皮ハ剝皮シ易ク又黒皮部ト白皮部トヲ分離スルニ其境界ヲ切り開キ白皮部ヲ剝取ルコトヲ得ルモ數日間浸水セバ尙ホ分離容易ナリ此際白皮部ニ黒皮ノ幾分ニテモ附着スレバ漂白困難ナルヲ以テ十分々々離スルコト肝要ナリ而シテ風乾白皮ノ歩留ハ生剝皮ニ對シ約一割五分ナリ。

蒸煮試験 風乾白皮ニ對シ苛性曹達七%ヲ適量ノ水ニ溶解シ攝氏一〇〇度ニテ蒸煮スルコト約一時間ニ及ビ後水洗叩解スレバ紙料狀態トナスヲ得次ニ石灰二割ヲ用ヒテ蒸煮ヲ試ムルニ不十分ナリ。

漂白試験 蒸煮試験ニ依リテ得タル未晒紙料ヲ漂白スルニ風乾白皮ニ對シ漂白粉約一五%ヲ以テ所理スルニ漂白十分ナラズシテ褐色ヲ帶ブ風乾セザル白皮ヨリ得タル未晒紙料ハ風乾物ニ對シ約一〇%ノ量ノ漂白粉ヲ用ヒテ純白ト爲ヌヲ得之レ風乾白皮ハ乾燥ノ際皮中ニ含有スル色素ノ酸化等ニ依リテ漂白ノ困難ヲ來スニ因ルベシ。

紙料ノ歩留ハ風乾白皮ニ對シ二八五七%ニ相當ス單纖維ノ測定セルモノハ長サ二乃至一三耗幅ハ〇〇〇五乃至〇〇二七耗ナリ。

五、ときはすゝき

ときはすゝきは俗ニ鬼薑ト稱シ土名ヲ薑仔ト稱ス禾本科ニ屬シ學名 *Miscanthus japonicus* Thunb. ナリ主ニ山地ニ繁茂ス草丈一年間ニ於テ一丈四五尺ニ達スルモノアリ直徑ハ基部ニ於テ一寸内外ニシテ髓ハ抱質ヲ以テ充タサル本試験ニ用ヒシ原料ハ臺中州下ノ産ナリ。

蒸煮並ニ漂白試験 イ原料ときはすゝきの葉部水分一八四四%灰分七六九%灰分中炭酸加里トシテ四〇七%の酸ニ不溶分七一・二%のミマ分チ一寸内外ニ刻ミ其風乾セルモノニ對シ一割ノ苛性曹達ヲ適量ノ水ニ溶カシタルモノヲ加ヘ高壓釜ニテ攝氏一四〇度ニテ五時間加熱シタルニ蒸熟ノ程度適度ナリ之ヲ水洗叩解シテ市販ノ漂白粉ヲ原料ニ對シ二割ヲ使用シ一時間半漂白シタルニ完全ニ漂白シ得タリ其歩留ハ未漂白紙料トシテ三六%漂白紙料トシテ二六%ナリ。

原料ニ對シ生石灰二割苛性曹達四分ヲ使用シ試験シタルニ蒸熟ノ程度ハ前試験ニ比シ劣リ其色暗色ヲ帶ビタリ未漂白紙料ノ歩留ハ三四%ナリ。

原料ヨリ葉ヲ除キ葉水分一六〇六%灰分二七六%灰分中炭酸加里トシテ三六一・二%の酸ニ不溶分二五九一%の全部ヲ取り之ヲ轉子ノ間ヲ通ジテ碎キ一寸内外ニ刻ミ其風乾セルモノニ對シ苛性

曹達一割二分ヲ用ヒテ前同様蒸煮シタルニ其程度適度ナリ一割二分ノ漂白粉ヲ用ヒ三時間操作シタルニ漂白完全ナリ其歩留四四%ニシテ紙料ノ水分ハ一〇%ニテ灰分一六二%ナリ
ニ莖部ノ内先端約四尺位ノ部分ノミヲ取リテ試ミシニ蒸熟ノ程度適度ニシテ歩留ハ未漂白紙料トシテ四六%漂白紙料トシテ三五%ナリ

ホ前記ノ試料ト葉トヲ共ニ用ヒテ同ジク蒸煮セシニ其程度適度ニシテ歩留ハ未漂白紙料トシテ四二%漂白紙料トシテ三七%ナリ

ヘ莖部ノミヲ取リ背性曹達ヲ原料ニ對シ一割使用シテ蒸煮シタルニ其程度不十分ナリ
右試驗成績ニ據リテ觀ルニ莖部ハ莖部ニ比シ歩留少ナク莖部ハ根元ニ近キ部分歩留大ナリ而シテ蒸煮藥ノ使用量ハ莖部ヨリ莖部ハ多キヲ要ス其量ハ莖部ハ背性曹達一割莖部ハ一割二分ヲ標準トシテ可ナルガ如シ右廢液中ニハ尙アルカリノ殘留アルモノ多シ該液ヲ採リ蒸發乾燥シ燒キテ其「アルカリ」ヲ測定セルニ使用背性曹達ニ對シ八一六二%ナリ又莖ノ所々ニアル節ノ影響ニ關シテハ前記試驗ノ如ク轉子ノ間ヲ通ジテ碎キ置タトキハ特ニ障害トナルヲ認メズトシキ莖中ノ單纖維ヲ測定セルニ長サ一〇乃至五五耗幅〇〇〇五乃至〇〇二四耗ナリ

六、苧蕉及山苧蕉

苧蕉ハ薑科ノ植物ニシテ學名ヲ *Musa sapientum* L. ト稱シ全島到處ニ産スルモ就中臺中州管内ハ生産數量全島ニ冠タリ總督府統計ニ據レバ全島ノ苧蕉植付甲數ハ二九八四五甲ニシテ結實ノ樹齡ニ達シタルモノ三一五一八一五本ナリ而シテ採實後ハ株ヨリ切り取リテ葉却スルヲ常トス稀ニハ織布又ハ製網用纖維採取ヲ試ムルモノアレドモ纖維ノ歩留僅少ナルト且ツ強韌ナラザルニヨリ專業トスルモノナシ

風乾基皮ノ歩留 試料ハ臺北州下ノ産ニシテ採實後株ヨリ切り取リタルモノナリ葉部ヲ除キテ重量ヲ檢スルニ約二斤ヲ算セリ之ヲ縱ニ四ツ割リニナシ心部ヲ去リ莖皮ヲ轉子ニテ壓搾シ風乾ス其歩留心部ヲ去リタル試料ニ對シ約六分餘ナリ

蒸煮及石灰浸漬試驗 イ風乾試料ヲ高壓釜ニ取リ背性曹達八〇%ヲ加ヘ適量ノ水ト共ニ攝氏一四〇度ノ温度ニテ五時間蒸煮セシニ大部分ハ蒸熟良好ナルモ所々ニ稍々堅キ部分アリ然レドモ叩解ニ依リテ紙料状態トナスコトヲ得次ニ背性曹達ヲ増加シ試料ニ對シ一〇〇%トナシ前同様所理セシニ甚ダ良好ナリ

ロ風乾試料ヲ平釜ニ取リ之レニ對シ石灰五割ヲ加ヘ適當ノ水ト共ニ攝氏一〇〇度ニテ一〇時間蒸沸セシニ蒸熟良好ナラズ十分叩解スルモ尙ホ所々ニ纖維束ノモノヲ存セリ次ニ石灰三割背性曹達五分ヲ加ヘ適量ノ水ト共ニ同温度ニテ八時間蒸沸セシニ蒸熟状態前者ニ比シ良好ナリ更ニ石灰二割ト背性曹達一割ニ増シ五時間蒸沸セシニ蒸熟良好ニシテ叩解ニ依リ紙料状態トナスコトヲ得タリ次ニ背性曹達一割ヲ用ヒ一〇時間蒸沸セシニ蒸熟良好ナラザリシヲ以テ別ニ一割五分ニ増加シ蒸沸五時間ニ及ビシニ良好ノ結果ヲ得タリ

ハ石灰浸漬法 苧蕉莖ヲ二ツ割或ハ四ツ割リトナシ心部ヲ去リタル生莖皮水分約九五%ヲタンクニ裝入シ約五六寸ノ厚サニ及ビテ之ニ石灰ヲ散布シ再ビ莖皮ヲ裝入シ石灰ヲ散布シ之ヲ交互ニ反覆ス使用石灰ノ量ハ原料ニ對シ約三分ナリ裝入終了後水ヲ注加シテ原料ノ上層面ヲ被フニ至ラシメ浸漬放置セリ約三〇日間(此間ノ水温平均攝氏約二二度)ヲ經過シタル後チ水洗シテ再ビ水ヲ注加シ四―五日間放置セル後チ水ヲ交換シテ更ニ數日間浸漬シ後水洗シ叩解ヲ行ヘルモ尙ホ強韌ナル纖維組織殘留ヒシ場合アリシヲ以テ背性曹達ノ稀薄溶液ニテ蒸沸シ水洗叩解後漂白作業ヲ行ヘ

リ此方法ハ本島在來ノ粗唐紙製造法臺灣總督府研究所報告第六回記載ニ準據セルモノナリ。
漂白試驗 上記試驗ニ依リテ得タル未晒紙料ヲ漂白スルニ風乾試料ニ對シ市販漂白粉二割ヲ用
ヒタリ完全ニ紙料状態トナレルモノハ約五時間ニテ漂白スルコトヲ得タルモ尙ホ纖維束狀ノモノ
ヲ殘留スルトキハ一夜間漂白液ニ浸シテ後水洗叩解スルコトニ依リ漂白紙料ヲ得タリ而シテ歩留
ハ心部ヲ去リタル風乾苧莖ニ對シ其風乾物平均約三割五分同生莖ニ對シテ平均二分ナリ生原料
一〇〇斤ヨリセル紙料ハ之レヲ漚紙シテ普通ノ美濃紙形トシテ約五〇〇枚内外ヲ製スルコトヲ得
タリ。

單纖維ヲ測定セルニ長サ四乃至七耗幅〇〇〇四乃至〇〇一五耗ナリ。

山苧莖ハ學名ヲ *Musa Parviflora* L. *Subsp. Siamifera* Baker. *Var. formosana* Warb. ト稱シ本島隨所ノ山地ニ野
生スルモ新竹地方山地殊ニ多シ外觀苧莖ニ酷似セルモ莖幹小ナリ結實スルモノアルモ食用ニ供ス
ルヲ得ズ本植物ノ利用ニ就テハ或ハ其灰中ヨリ炭酸加里ヲ採取シ或ハ莖皮ヲ以テ真田ヲ製セルモ
ノアリシモ目下何レモ中止セリ山苧莖ハ殆ンド心部ナキヲ以テ全部紙料ニ利用スルコトヲ得ベシ
其風乾物ノ歩留ハ約六分ニシテ之ヨリ漂白紙料ヲ得ルニ至ル工程紙料ノ歩留及單纖維ノ長サ巾等
殆ド前記苧莖ノ場合ト同様ナリ。

七、鳳梨

鳳梨ハ鳳梨科ニ屬ス學名ヲ *Ananas Sativus* Schult. ト稱シ土名ヲ荳莢オンライト云フ果實採取ヲ主眼
トシテ栽培セラレ本島各地殊ニ中南部地方盛ナリ最近ノ調査ニ據レバ其數約一千萬株ニ達ス葉ヨ
リハ纖維ヲ採取シテ荳莖布ヲ製スル者アルモ微々トシテ振ハズ大部分ノ葉ハ枯廢ニ委ヌ本試驗ニ
供セシ材料ハ臺北地方ノ産ニシテ葉長約二尺乃至五尺ノ間ニアリ葉ノ邊緣ニハ刺アルヲ以テ之レ

ヲ除去シテ日乾スルニ刈取原料水分九〇%ニ對シ風乾物約一割一分餘ヲ得タリ鳳梨葉ヨリ紙料ヲ
製スルニハ大略上記苧莖ノ試驗ト同方法ニ據レルモ其表皮ハ苧莖莖皮ニ比シ強韌ナルヲ以テ其
工程稍々困難ニシテ叩解及漂白ニ長時間ヲ要シ漂白粉ヲ二五%風乾試料ニ對シニ増加シテ始メテ
紙料トナスコトヲ得タリ而シテ漂白紙料ノ歩留ハ風乾試料ニ對シ平均約二割六分餘ニシテ生原料
ニ對シテハ約二分八厘ナリ單纖維ノ測定セルモノハ長サ二五乃至九〇耗幅〇〇〇四乃至〇〇一五
耗ナリ。

右試驗ノ結果ニ徴スルニ本島産カチノキト内地産ノモノトハ單纖維ノ物理的性質殆ンド大差ナ
キヲ以テ同質ノ紙ヲ製シ得ベキハ明ナリ從來ノ起業者ガ多ク經營困難ニ陥レルハ野生品ヲ採集利
用セントセルノ故ヲ以テ中途原料ノ供給意ノ如クナラザリシガ爲メナラズトセズ若シ山間等ノ適
地ヲ選ビテ之ガ栽培ヲ行ヒ其一年生ノ楮皮ヲ用フルトセバ或ハ其稼行可能ナランカ桑ノ紙料ハ其
質楮ト大差ナキヲ以テ強韌ナル和紙ヲ製スルニ適セリ唯其歩留ガ楮ニ比シ僅ニ三分ノ一ニ止マル
ヲ遺憾トスルモ將來本島養蠶業ノ發達ニ伴ヒ有望ナル和紙原料ナルベシハはまばう及うらじろ
えのき等ハ從來利用セラレタルコトナキモ之レ亦々強韌ナル和紙ヲ製シ得ベクと云はばすゝきハ最
近製紙原料トシテ注目セラル、者ニシテ單纖維ノ長サ楮ノ夫レニ比シ約二分ノ一ニ達スルモ體部
ノ抱質ヲ紙料ニ含有スルヲ以テ之ノミニテ和紙ヲ製スルハ稍々困難ナリ若シ之ニ楮紙料約二割内
外ヲ加フレバ和紙ヲ製シ得ベシ苧莖山苧莖鳳梨ハ前者ノ如ク他ノ紙料ヲ混ズルコトナク和紙ヲ製
シ得ベシ其紙質良好ナラズト雖モ一ノ廢物利用策タルヲ失ハズ。

本試驗ニ就テハ片山技師並ニ服部技師ノ懇篤ナル指導ヲ與ヘラレタリ茲ニ謝意ヲ表ス。

臺灣總督府中央研究所工業部編者第一
 試驗材料ノ大部分ハ殖産局林業試驗所ヨリ分與セラレタリ茲ニ謝意ヲ表ス。
 (大正十年四月三十日)

一〇 (九九)

總督府
 同様に試

番號	第一	第二	第三	第四	第五	第六	第七
頁數	一	一	一	一	一	一	一
行數	七	八	八	八	九	九	一〇
誤	士名 Chamaepitys Ohtosa	曲尺 Ohtosa	居名 丸 和名	居名 丸 和名	居名 丸 和名	居名 丸 和名	居名 丸 和名
正	士名 Chamaepitys Ohtosa	居尺 Ohtosa	居名 丸 和名	居名 丸 和名	居名 丸 和名	居名 丸 和名	居名 丸 和名

臺灣産木材ノ乾溜試驗成績續報

技手 小出二郎
 乾溜試驗ヲ行ヒ其成績ヲ發表セリ其後ニ於テ

月	九月	八月	一月	三月
立木材ノ 尺數	6.42	1.1	0.11	0.08
輪數 一寸間ノ年	11	12	10	8
水分	1.8%	1.1%	1.4%	1.0%
狀	心片材共完全	同	同	同
態	九太幹材完全	同	同	同

一 (九九)